

5-10			
主題	介護福祉士の専門性について		
副題	知識と実践の融合		
キーワード1	介護実習	キーワード2	介護過程
		研究(実践)期間	15ヶ月
法人名	学校法人 サンシャイン学園		
事業所名	東京福祉保育専門学校 介護福祉士学科		
発表者(職種)	金子鈴香、佐藤匠莞、下浅 理、高橋泉美、矢野あかり(2年生)		
共同研究(実践)者	田中美幸、松本次生(介護福祉士学科教員)		
電 話	03-3981-1686	FAX	03-3987-0360
今回発表の 事業所や サービスの 紹介	学校法人サンシャイン学園は豊島区東池袋にある介護福祉士養成校です。 1988年4月に都内で最初に介護福祉士養成校として厚生労働省より、認可 されました。当校のでは、双方対話型授業が特色です。また、介護実習では施設と の連携協力により、実践力のある学生の養成を目指しています。		

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

厚生労働省より、介護福祉士の取得するためには、1850時間のカリキュラムが義務付けられている。そのうち、450時間が介護実習が含まれている。

介護実習の内容は、養成ごとに異なるが、2年間で3段階に分けて、在宅や社会福祉施設等で行っている。

学内で学んだ ICF(国際生活機能)を介護過程に取り入れているのかを介護実習において段階的に理解し、利用者ひとり一人に適した生活支援を実施する。

ICF(国際生活機能)における、他職種との連携方法を学ぶ。

介護実習では、介護とは何かを知るために、実習担当者及び職員の皆様の指導の下に、高度な知識と技術を段階的に学ぶことを目標とする。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

ICF の画期的な点とはについて学ぶ。

人はたくさんの能力、プラス面があり、障害よりもまずはそこを見ようとしている。

ICF は万人に当てはまるモデルで、私たちの人生を考える時にも役立つということが非常に画期的である。

今までの介護では、利用者のマイナスしか見ていないことがあった。これからの介護ではプラス面を増やすことが大事である。

欠点はわかりやすいが、プラス面は大きいから全部見るのは時間がかかる。しかし、プラス面を見て、隠れたプラス面を聞き出すことが介護では大切である。

隠れたプラスには2つの能力がある。

①元々持っている能力だが、使っていないもの。

②専門的技術で引き出せる能力。

以上の点を、介護実習で学び、実践能力の向上を図ることを目的とする。

《3. 具体的な取り組みの内容》

介護実習Ⅰでは、不安や戸惑いの中で実習に臨む。

利用者に関わるためには生活歴やライフスタイルをとそれを支える価値観を知ることが良好な関係を構築するためには不可欠である。

また、介護福祉士の役割を知ることと、施設概要と機能を知ることがを体験して学ぶことができるようになる。実習で体験したことは、授業で学んだ ICF での背景因子であることを理解することができる。

介護実習Ⅱでは、日常生活の支援が目的である。職員の方の見守りの中で実践力の向上を図る。ADL の支援では、利用者に迷惑をかける毎日であった。

利用者と職員の励ましや、適切なアドバイスがあり、利用者の体調は日々変化しているため実行状況の把握が大切であることを学ぶことができる。

実行状況(している活動)とは、毎日の生活で実際に行っている活動である。介護は、直接的には、主にこれらに対して働きかけるため、具体的なやり方を細かく観察して把握できることが、介護の専門性として重要である。

能力(できる活動)には、いくつかの種類があり、ひとつには本人が頑張れば、また家族などと一緒に工夫すれば可能な状況である。

人の状態の把握としては、している活動を正しく捉えることが大事である。

介護職は、している活動の状況を観察し働きかける専門家であることを理解する。

介護実習Ⅲでは、活動の向上に向けた介護は、その時点の活動の不自由さだけを考えるのではなく、将来にわたっての生活全体を考えて、一人ひとりの利用者について個別的・個性的な活動目標を立てることを課題として、介護計画を立案、実施する。

している活動とできる活動の両者の区別はアセスメントだけでなく具体的な働きかけにおいても重要である。

活動の向上に向けた介護は、その時点の活動の不自由さだけを考えるのではなく、将来にわたっての生活全体を考えて、一人ひとりの利用者について個別的・個性的な活動目標を立てることが大切であることを理解する。

参加の目標を実現する立場に立って、活動ごとに、する活動を設定し、それに向かってしている活動とできる活動への働きかけが必要であることが重要であり、介護福祉士の専門性ではないかと考える。

《4. 取り組みの結果》

介護によって不自由な生活行為(活動)を手伝うだけではなく、生活行為(活動)そのものをよくすることもでき、また社会や家庭での役割を楽しみも向上させ、生活機能の向上を実現させることができる。すなわち、現時点の状態だけでなく、将来のよりよい生活機能の状態も踏まえて、介護を行うことが、介護の専門的であることを450時間の介護実習の中で、知識と実践が一体となって、介護職員が実践している様子を見て学び、利用者に関わることで実践力の向上が図れる。

《5. 考察、まとめ》

介護職は、人を対象にし、その人をできるだけよい状態にすることが役割である。

活動そのものが大事なのではなく、どういう参加の状態にすれば、その人が幸せになるのかを考え、それに必要な活動能力を高める介護が重要であることが理解できる。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究に利用者及び実習施設が特定できるような情報は使用していない。

《7. 参考文献》

「よくする介護」を実践するための ICF の理解と活用。中央法規出版 大川弥生著

《8. 提案と発信》

実習最終日に、この施設での実習が本当に思えたからこそ、笑顔で実習を終えることができ、有難うございました。